
太陽にボケろ！ 2

B J

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

太陽にボケろ！2

【Nコード】

N9143B

【作者名】

B J

【あらすじ】

都内の超高層ビルの一室で殺人事件発生！熱い男達の熱い現場検証が今繰り広げられようとしている！

眠らない街東京

ここではあらゆる犯罪が24時間ノンストップで蠢いている

この物語は新宿竿曲がり署で活躍するデカ達の熱い男の生きざまをトウドウ部長を中心に心の底から悪を憎む正義の集団がこの世の許されざる犯罪に敢然と立ち向かい果てしなき壮絶な戦いを繰り広げてゆく物語である

さて今日はどんな事件がこの熱い男達の導火線に火をつけるのだろうか・・・

【戦慄の現場検証】

都内のマンションの一室で殺人件が起きた。被害者は「相亭蛭頭」38才男性、IT企業経営、室内に争った痕跡無し、後頭部に鈍器と思われる物で殴打されたと推測される損傷有り、以下作者の状況説明下手のため読み手のイメージネーションの世界にお任せすることにしよう

ピイイポオオオオ〜パアアポオオオオ〜・・・キイイ〜・・・ガチャツツ・・・バタムツツ・・・

トウドウ「つたくバカでけえビルだぜえ、なんだか首が痛くなつちまわあ・・・いつたい何階建てなんだよこいつあ？」

ポツキー「62階建てだそうですボス」

トウドウ「かあーっ！たまらんのう！なんぼすんのかねえ？ええおい！世の中やっぱ銭だよなあ、銭銭銭！ここに住んでる奴らつていたいだけ稼いでるんだろつかねえ！？ええおい！こいつら全員しょっぱいてぶち込みてえなあおいこの野郎！・・・で、害者は何

階のヤツなんだ？」

ポッキー「86階だそう・・・」

トウドウ「計算が合わねえだろうがああああああっつ！！！」

トウドウのパンチ！ラリアート！チョップ！ローキック！かかと落とし！

八馬さん「45階ですよボス」

トウドウ「ポッキーの野郎、いつまで経っても算数がこの野郎おおお・・・」

ドギューーンッ！ズッキューーンッ！バゴオオーンッ！

兆さん「こらああああああっつ！！ランドセル！！何やつとるんだあきさまああああっつ！！！」

ランドセル「いやね、兆さん、この弾丸が何階まで届くかなって思っでですね？」

兆さん「アホかきさまああああっ！！早く銃をしまわんか！撃つぞためえええええええっ！！！」

トウドウ「たぐどいつもこいつもこの野郎おお・・・」

………
《エレベーターの中》
………

プルルルルウウ〜！プルルルルウウ〜！

トウドウ「はい、トウ・・・！！何！何だと！そんなバカな話があるか！ああ！ああ！こっちのカタがつき次第、大至急そっちに向かう！ああ！ああ！・・・プチッ・・・ちっ・・・」

八馬さん「何事ですかああっ！ボス！！！」

トウドウ「息子のヤツがお中元でもらった俺の分の辛子明太子を喰っちまいやがったそうだ」

一同「・・・・・・」
カチャッ・・・

トウドウ「銃身こっちに向けんじゃねえ！コッペパンこの野郎！」

兆さん「しつかし45階ともなると長えなあおい、しかも各階停止
だぜ、まいっちまうぜえ」

セキセイインコ「しりとりでもしましようか？」

トウドウ「ばっか野郎おお・しりとりりり・淋病」

八馬さん「うううう・ウミウシ」

兆さん「しししし・死に神」

シュークリーム「みみみみ・皆殺し」

コッペパン「しししし・死体置き場」

システムキッチン「ばばば」

トウドウ「ええええいつ！もうやめやめ！なんでい！みんな気色の
悪いのばっかじゃねえか！もうちよつと気の利いたこと言えよてめ
えらよおう！」

オットセイ「ボスが一番最初に妙なヤツ言・・・」

八馬さん「上司をなんと心得るうううつ！！」

ドガツツツ！！・・・ドテツ・・・

拳銃の握るとこのカドで八馬さんがオットセイの後頭部に一撃！

チィーリーーンツツ！！

トウドウ「フウ・・・やつとで着きやあがったぜこの野郎、さあ！野
郎どもさっさと現検だぜっ！とつとと済まして久しぶりにソープ
でも行こうぜ！さあさあ行った行ったああ！」

トウドウは一番先にエレベーターに乗り込んだので出るときは一番
最後だった

これはお約束ごとのようなものであり、両手をズボンのポケットの中
に突っ込み颯爽と一番にエレベーターに乗り込み、エレベーターが
その階に着くと出るときは今度は一番最後に颯爽と両手をズボンに
突っ込み、「真打ち登場！」「いよっ！この大統領！」「トウドウ
屋あああつっ！」てな感じて出てくるのであった。これはトウド
ウの哲学でもありポリシーでもあり美学でもあるのだった。しかし
今回ばかりはちとかつてが違った。3番目に出たオリバーが食べて

一同「あ、ボスー!!」

トリートメント「どこに行ってたんすか!? ついさつきみんながボスがないボスがないって気づいたんすけど、緊急事態かなんか連絡入ったんすか?」

トウドウ「いや、そんなんじゃねえんだ、ただ俺がエレベータを出た直後、非常階段の方でなにやら足音のようなもんが聞こえたんだ俺がそっちの方へ足を運ぶとその足音も逃げるように遠ざかったんだ、そこからもう45階から一気よ、俺は走った、我をも忘れ久しぶりに一気に階段を駆け下りたんだ。ヤツの足音が非常階段を劈く俺はまだデカになりたての頃犯人を追って池袋から青森まで一気に走って追いかけて行ってた頃のがむしろに突っ走ってた若かりし日の自分を思い出したぜ。さっきのはそんな時に比べりゃ屁みたいなもんさ」

八馬さん「どこまで追っかけてったんです!？」

トウドウ「八王子だ」

一同「八王子!!!!!!」

トウドウ「ああ、しかしその男はとっ捕まえたぜ、しかし今回の事件とまったく関係ねえ人間だったけどな」

兆さん「誰だったんですか?」

トウドウ「ピザ屋の宅配のあんちゃんだった・・・」

ピクルス「で、八王子まで行ってこの短時間でどうやって帰ってきたんですか!？」

トウドウ「よかったぜ航空自衛隊に知ったヤツがいて、そいつの操縦するF-16イーグル戦闘機に乗っけてもらって丁度このビルの屋上でパラシュート降下よ、ちよっと着地で膝っ小僧を擦りむいちまったけどなへへっ・・・」

一同「さすがっ!ボスッ!!」

トウドウ「へっ・・・よせやい!照れるじゃねえかこの野郎・・・ところでニシキヘビ!冷蔵庫の中は検証したのか!？」

ニシキヘビ「イエスボス!一応隅から隅まで検証した結果、やっぱ

金持ちですね、間違いなく害者はグルメですよ、やっこさんの冷蔵庫の中身ときたら何でもありませんからへへッ、なんとかボスを満足させれそうなオーダーが出来そうですね！」

トウドウ「うむ、頼んだぞニシキヘビ、おめえの料理は天下一品だ、今からワクワクしやがるぜえチキシヨウ、舌鼓打ちながら待つとるぞおおお」

八馬さん「おいおいおいおい！なんだなんだこの部屋はえええ！？まるで殿様気分じゃねえか・・・ちっ、生意気だぜこの野郎、若造のくせしゃーがつてけつたくそ悪い、おいコツペ！このズタ袋に金目の物全部入れちまいな！！」

兆さん「こりゃ・・・また・・・おつなもんで・・・すな・・・これがウオーターベッドっちゆうやつか、一度でいいからこんなのでカミサンと一発やってみたいもんですな・・・と・・・ちよつとオナニーだけでもやっところかなつと・・・スコスコスコスコ・・・シコスコシコシコ・・・お・・・おお・・・とおおつ・・・と・・・と・・・（嫁の名）とし子おおおおおおおおおとおおおとおおおー！！！！！！」
「ーっっ！！！！ドロッ・・・ああああ・・・ガクンッ・・・」
スペース牛「何やってんだかも兆さんは・・・今年57でしょう？みつともないから早くそのヨレヨレのブリーフパンツはいて下さいよもう・・・あ、兆さん、ベッドに付いたそのザーメンはちゃんと拭き取って下さいよ、じゃなきゃ兆さんのDNAが検出されますからね！」

トウドウ「は！！ニシキヘビ！」

ニシキヘビ「はいボス！なんでしょうか！」

トウドウ「すっかり忘れてたぜ、冷蔵庫に例のブーツはあったのか！？」

ニシキヘビ「あ！そういえば今回もありませんでしたボス！！」

トウドウ「ファック！ブウシイエット！ガツデイムツ！サナダビツチー！」

シュークリーム「どうされましたボス！」

トウドウ「わからんか？シュー・・・」

シュークリーム「????? すいませんボス！ちよっと自分、わかんないっす！」

トウドウ「まだまだだなお前も・・・プッチンプリンだろうがバカ野郎！今すぐ近くのコンビニでプッチンプリン8個買ってこいこの野郎！」

シュークリーム「了解ですボス！至急買ってきます！」

ボス「バカ野郎！子宮じゃなくてプッチンプリンだろうが！コンビニに子宮なんて売ってるわけねえだろうがこのストコドッコイ！そもそも子宮つてのはなあ、女のなんちゅうか、ここにあつてだなあ、とにかく売りモンなんかじゃねえんだよこの大バカ野郎！！」
シュークリーム「いえ・・・ボス・・・その子宮じゃなくて至急の至急ですボス」

トウドウ「ふふっ・・・わかつてるよバカ野郎、なに鳩が豆鉄砲喰らったようなツラしてやがんだい、早く行って買ってこいこのストコドッコイ！お、ちよ、待ちやがれてめえこの野郎、お前え今この俺に舌打ちしやーがったなこの野郎、ふふっ・・・わかつてるよ、冗談だよバカ野郎、なに鳩が豆鉄砲喰らったようなツラしてやがんだい、とつとと行ってきやがれてんだこの野郎！・・・ふふっ・・・可愛いヤツだぜまったくよおう・・・」

ニシキヘビ「料理が出来上がりましたボス！」

トウドウ「うむ、ご苦労ニシキヘビ、毎回毎回お前の『現検冷蔵庫の余り物ニシキヘビ真心クッキング』は最高だぜええ、で、今日の料理は何ちゅう料理なんだい」

ニシキヘビ「はいボス、今日の料理は『邪馬台国南太平洋高気圧的主観客観甘い思春期の悩み嫁を貰うなら姉さん女房風味噌煮込みうどんスパイリタッチ同盟揚げ』であります！！」

ボス「なるほど、そんな名前聞くとなんだかワインでも飲みたくない

つちまうじゃねえかおい。おお〜い！獅子舞！この部屋のどっかにワインはねえのか！？」

獅子舞「はい、私も大のワイン好きでしてこれだけの金持ちだからなんかいいのがあればお土産にと先ほどから草の根わけて探してるんですけどいつころに見あたりませんね。この状況から判断するとこの害者はワインを飲んでなかったと推測されますはい！」

トウドウ「ちつ・あああつもう！なんか気の利いた飲みモンでもねえのかよ！つたくよおう！」

獅子舞「黒酢と青汁ならありますボス！」

トウドウ「飛ばされてえのかこの野郎！！ああつもうイライラするぜつ・おう！システムキッチン！害者が握ってるそのタバコ取ってくれ！」

システムキッチン「メンソールつすよボス！」

トウドウ「あああつ！なんでもかまわん！早くもつてこんか！！」

八馬さん「あああ〜・ううう〜ん・ああいい湯だったああ〜・ちようどいい湯加減だったですよボス、ジャグジーはあるわ、大理石だわ、も、広いのなんのつて！あたしや思わずバタフライさせてもらいましたよハツハツハツハツ！」

トウドウ「ほおう、そりやまたオツなもんだな、食事が済み次第私も一風呂浴びさせてもらうことにしようかな。じゃ、現検は私が風呂から上がってからにしましょう。パン！パン！パン！はい！じや、ちよつとみんな集合おおおつ！！いいか！お前達！今から俺が喰い終わるまでに各々が「これが凶器なんじゃないのお〜！？」

と思われる物証を二点！それをお前らの両手に持って真上に高々と掲げいつものようにみんなで輪を作り俺を取り囲んで「自分はこんな理由でこれを選びました！そしてこの害者のここをこんな風にこんな風に叩いたと思います！」と大きな声で状況説明をしながら俺の周りを時計回りに回り続ける！兆さん！（いつも携帯しているラジカセのみんなの童謡テープ5巻セット）ミュージックスタート！」

八馬さん「ふふっ・・始まった始まった、竿曲がり署名物【物証デ
クニカル現検モードパターン】が、ふふふふふっ・・」

“ファンフォオオ〜ファンフォオオオ〜ファンフォオオ〜・・キイ
イイ〜・・バタムツ！ダツダツダツダツ！ガチャアアアツツ
！！”

シュークリーム「ボスうううー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！
！」

トウドウ「おおっ！ご苦労！プッチン・・」

シュークリーム「署長は来ておられますか！？」

トウドウ「何言ってるんだおめえ??」

シュークリーム「大変ですボスッ！署長の車が下に止まってました
あああああつつっ！！！！」

トウドウ「全員、現場検証開始っ！！」

八馬さん「ボスッ！！リビングでマッサージチェアに座り全身が小
刻みに揺れている署長を発見！！！」

==END==

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9143b/>

太陽にボケろ！ 2

2011年1月20日03時51分発行